

第1回上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

【日時】平成29年10月27日（金）10：00～12：30

【出席者】11名

【欠席者】3名

【傍聴人】1名

【事務局】爲本理事、野崎課長補佐、俵本係長、日高

1. 開会

- ・ 事務局配付資料確認

2. 町長あいさつ

- ・ 事業実施にあたって、行政の考え方、計画の中身、費用対効果、今後の展開について精査していただくことは重要である。検証のなかで忌憚のない意見をいただき、お聞かせいただいた意見を踏まえて今後の行政を進めていきたいと思う。

3. 委嘱状交付

- ・ 今中町長より委嘱状の交付

4. 委員紹介

- ・ 各委員より自己紹介

5. 委員長・副会長の選出について

- ・ 委員の互選により、上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会において会長を務めた中山委員を会長に、同審議会副会長を務めた鶴谷委員を副会長に選出
- ・ 中山会長、鶴谷副会長からあいさつ

6. 趣旨説明『上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会について』

- ・ 事務局より趣旨及び検証委員会の進め方について説明
- ・ 「実施」事業から先に検証を進めていただき、「未実施」事業は後日書面でご意見を寄せていただきたい。

7. 上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会における取組内容の検証について

(1) 子育てママ就業支援事業（新設）について

事務局： <政策調整課より子育てママ就業支援事業の新設について説明>

辻委員： 4点質問と意見

- ① 行った検証についてフィードバックはしないのか？
- ② 一覧表を作っていただいているが、取組内容に番号を打った方がスムーズに進行できると思う
- ③ 事業評価シートは子育てママ就業支援事業となっていて統一すべき
- ④ 事業の見直しは大事だが、今年度どうだったかということを示してもらえないと評価できない

中山委員： ①については、今日の検証委員会で決着したものは振りかえらないということはずに、議論したが、今後の方向性について意見が一致しない場合や前回の議論したものの内容について、やはりこうした方がいいのではないかという意見があれば、また出していただいて、再度検証を行うというかたちをとればと思う。残りについては事務局からご回答いただければと思う。

事務局： ②については、ご指摘いただいたとおり、取組内容ごとにナンバーリングを施して、次回の会議でお配りさせていただく。③については事業評価シートの「子育てママ就業支援事業」の標記に統一して、一覧表を修正する。④については、今ご説明させていただきませんか？

辻委員： いや、はじめの説明のときにしてもらいたかったということ。

中山委員： 平成 29 年度も半分動いているので、その部分についても今後の取組方針のなかで説明を求めたい。

藪内委員： この検証は平成 28 年度事業ということだが、平成 29 年度予算で見るということでいいのか？

中山委員： 今回検証いただくのは平成 28 年度の取り組みになる。平成 29 年度はまだ動いている最中で、まだ結果は出ていないので、今回は結果が出ている平成 28 年度事業について検証していただく。ただし、先ほど委員からもあったように、今年度も半分経過しているので、そのあたりも加えてご説明していただければわかりやすいかなということ。

藪内委員： 単純なミスだと思うが、子育てママ就業支援事業の予算が平成 29 年度予算に記載されている。

事務局： 子育てママ就業支援事業については平成 29 年度に予算計上しているもので、平成 30 年度予算については来年 3 月議会で議決のうえ組むものとなる。

牧浦委員： 子育てママ就業支援、テレワークの会場ができるというだけで、事業が実施されていないのに検証するのはどうなのか。それより、今後の方針で実施となっているもので、「現状のまま継続」や「見直しして継続」と書かれているが、こういうものをもう少しどのように見直しするのか検証するものではないのか。例えば、今やっているお見合いパーティーを現状のままいくのかとか。既にやっていることに対しての評価をしないで、未来のものに対して検証するという

のはおかしいのではないか。

中山委員： もう一度確認しておくが、本日皆さま方に検証をお願いするのは、既に決算が出ている平成 28 年度に実施した事業に対して、2016 年度の目標と照らし合わせながら検証をしていただくということになる。平成 29 年度は現在進行形で、今年度が終わっていないので、結果がまだわからないということになることから、こちらについては来年度の検証委員会をお願いする。ただ、委員さんからご指摘があったように、今年度も半分進んでいるので、その辺の説明も多少あったほうがわかりやすい。それから今後の方向性もそうで、基本的には事務局から説明があったが、実施したものについては議論しやすいと思うが、子育てママ就業支援事業についてはまだ動いていないので、議論しにくいかなと思う。

事務局： こちらの子育てママ就業支援事業については、総合戦略に掲載していなかったもので、今回追加ということで報告させてもらっている。他のものは実施したということで検証していただくというものである。

辻議員： 平成 29 年度の途中であっても報告してほしいという背景には、30 年度の予算取りがスタートしていて、そうした意見を踏まえて、行政側も検討されるのではないかと思いますし、ご意見があれば平成 30 年度の予算に少しでも反映できるのではないかとということで発言させていただいた。

西山委員： 事務局に尋ねるが、委員から予算等意見が出たが、評価シートのなかに予算が入っているが、あくまで計画上の予算を計上されているということによろしいか。

事務局： そういうことです。

事務局： 子育てママ就業支援事業の説明もここでさせていただきますと、平成 29 年度に入り、繰越も含め 3,027 万円で予算も措置しておりまして、現状、上牧町ささゆりルーム（1 階）の工事にもう間もなく入るとい段階にあります。12 月のオープン予定で、昨日も会社説明会も行っており、参加者のかたについても確保しつつあるという状況です。委託する事業者については、12 月のオープン以降 3 年間の委託契約のなかで子育てママ就業支援事業の支援業務として拠点の運営を行っていただくことになっている。

中山委員： つまり、この分については、事業の分析、今後の方向性については議論する必要はないということで理解していいか。

事務局： 平成 29 年度の事業が終わった段階で、再度検証をお願いできればと考えている。

中山委員： 当初の総合戦略には入っていない事業であるが、今回新たに付け加えるという説明だということで理解させていただいて、検証そのものは来年度以降ということにさせていただいていいか。

事務局： はい。

牧浦委員：テレワークに関してひとつだけ言わせてほしい。上牧町の事業でやるものなので、上牧町の町民が大半を占めるようにインフォメーションしていただいて、婚活イベントではほとんどが上牧町外のかたが来られてましたので、保育所や幼稚園などでお願いしたい。

事務局：民間の事業者とも周知を含めて上牧町民を最優先して採用していただけるようなかたちで進めていただけるよう、打ち合わせ協議等させてもらっているところ です。

(2) UR 住宅の活用協議・UR 住宅の入居促進について

事務局：＜政策調整課より UR 住宅の活用協議・入居促進について説明＞

中山委員：特に重点的にお願いしたいのは、達成度、ニーズの方向性、町関与の必要性、見直しの余地、今後の取組の方向性について、どの評価を下すかを検討してほしい。

藤田委員：知識がないので教えてほしい。UR は現状何棟あって、どれくらい空き家になっているのか。

吉田委員：団地に住んでいるので、私のほうで少し説明させていただく。UR 西大和片岡台については 2009 年に再生再編に指定された団地となっている。そのとき、UR 全体で 70 万戸から 50 万戸に減らすという目標が最初に示された。そのあとさらに 10 年以内に 5 万戸減らすという方針が示された。現在この 9 年間で 2 万戸減っている。これが UR の縮小の現状です。片岡台については、棟数は 58 棟、部屋数は 1,580 戸、現在およそ 1,250 世帯入居されていて、どの団地に限らず、高齢化と入居者の減少が進行している。

事務局：片岡台団地の人口ですが、昭和 52 年 7 月がピークで、5,376 人となっている。それが平成 29 年 3 月で 2,194 人となっており、全盛期より約 3,200 人減少している。また、約 10 年前の平成 20 年 3 月時点でも 3,235 人いたが、この 10 年間で 1,000 人以上減少している。さらに老年人口の割合で見ると上牧町全体の数値として 31.4%のところ、片岡台団地については 39.8%で急速な高齢化が進んでいるのが現状である。

中山委員：ニーズの方向性、町関与の必要性、見直し余地にそれぞれ選択肢が設定されているが、非常に難しい。どれか選ばないといけないのか？

事務局：原則選択していただきたいと考えているが、ご意見いただきましたので、来年度の検証シートには反映させていただきたい。

吉田委員：町のほうでは、町長が UR 本社、西日本支社に回っているし、近隣の大学の寮にしてもらえないかという申し入れをしている。しかし、ニーズの問題で、入居はしてくるが高齢者が多い。高齢者のニーズをとる場合、人口を考えると先行きとしては必ず減っていくことになる。私たちとしては、若い人をどうかたちで入れていくのかということを考えていきたい。今のままだとニーズを

把握しにくいと思う。それと、再生再編として指定されている。この10年間何も変わらず、この先の10年も変わらない、手をこまねいて見ているだけでは。上牧町全体の人口減が深刻になっていくなかで、団地の住民としては住民コミュニティを壊されるから反対という姿勢だったが、これも考える時期が来たかと思っている。

町全体の問題として集約化を急ぐか、整備敷地をどのように利用するか、現在検討しているところである。

中山委員： 達成度については「C」とするということでもいいか？町としてはいろんな努力をしているが、いわゆる事業主体であるURとの協議が現時点で十分に進んでいないという理由になるかと思う。ニーズの方向性は「A（増加）」。町関与の必要性はむしろ「A」ではないか。先ほども議論があったように、町全体で見ても非常に影響が大きいと思うし、今後人口がどうなっていくかというところで、URは町ではないものの、公共的な住宅として存在していて、町の将来にとって非常に大きな影響を与えうるので、町としても関与していくという理由になる。見直しの余地は「C」。今後の方向性は事業費を増やすということは予算を増やすということでもいいのか。町の方針としては予算を付けてでも解決していくということでもいいか。

吉田委員： 費用負担の発生は避けられないというのは、入居促進するということで、若年層に対して家賃補助をすることになれば一般の民間住宅と整合性が取れないということになる。また、整理して縮小する場合、最初のURの条件は町営の建物を建てるということだった。行政の建物を建てる場合、町予算のなかで建設できるかを考えないといけない。民間を誘致するというのも選択肢に入ってくるし、その場合それほど負担はないと考える。

事務局： 担当者レベルの勉強会を発足している。協議次第では国の補助も得ながら、子育て支援や福祉施設などの拠点を誘致したいという思いもある。約3年間のなかで方向性を検討していく過程で、URを整備敷地の活用にあたって事業費を拡大する可能性があるかと考えていた。今後も協議を重ねていきたいと考えている。

中山委員： 達成度「C」ニーズ「A」町関与「B」事業見直しの余地「C」今後の方向性「見直しして継続」として勉強会を中心に具体化を図ることを記載してほしい。事業費の拡大については事務局で協議してほしい。

牧浦委員： 町関与の必要性は高いと考えるが、URに任せっきりだと淘汰されてしまう。町が動いてはじめてURが動いてくれるという現状なので、町関与の必要性は非常に高いと考える。

中山委員： では検証委員会としては「A」でよろしいか。

一同： （異議なし）

中山委員： 入居促進の評価について、達成度は「C」、ニーズの方向性「A」、町関与の方向性は「B」ということだが。入居促進については町が関与しているということか？

事務局： 町として、近隣の大学の生徒が住居を探している場合に、URに入居していただけるようパンフレットを配布したりしている。また年に1、2回、URの担当者と話をするなかで、シェアハウスの件など協議している。また、若者向けのリノベーションについても協議したが、家賃が低設定であるため対応できないということだった。

中山委員： 事業の見直しの余地で「見直しの余地はあるが時間が必要」とあるが、これまでの動きを見直す予定はあるのか？

事務局： 町長が先頭に立って、今後URのほうで計画を抜本的に見直していただいて、集約化の計画策定のなかで、町も入って、整備敷地ができた場合町の施設を入れて、町の賑わいを取り戻す。担当者の勉強会も始まったばかりなので、今後協議を重ねていく。

西山委員： 現状について少し説明をさせていただく。URについては当初入居促進として、お願いしていたところであるが、URの活性化、再編について町も関与させていただく、早期に計画、方向性を示してほしいと申し入れをして、担当者レベルの協議を進めていくという段階であって具体的なにはまだ。それと、評価シートのなかで、入居の促進については先の話にもなるので、入居の促進はお願いしているが、協議の内容も取り入れて方向性も見直ししてはどうかという意味で事務局はこの判断をしているのかと解釈している。

中山委員： その通りだと思うが、UR活用協議とUR入居促進の区別がつきにくい。できれば大きな話（今後の方向性など）は活用協議として、入居促進は今ある空き住宅の活用など内容を整理して区別にしたほうがいいのでは。大きな話と今すぐ可能なものとは分けるとかしたほうがいいと思う。活用協議は抜本的なところ、勉強会の内容にして、入居促進は今空いているところへの入居促進について書いてもらえばいいと思う。

辻委員： 今後の取組方針は相手もあることだし、「今後も引き続き協議をしていく」ということが記載されていればわかりやすい。ちなみに28年度は動きがなかったということだが、29年度は町長や吉田委員も動かれているということで、URの意向を確認するため、また町の意向を伝えるために「今後も協議を続けていく」ということを文言として入れてはどうか。

中山委員： それでは達成度「C」町関与の必要性「A」でいいか。

一同： （異議なし）

（3）イベント等における町のPRの実施について

事務局： <政策調整課よりイベント等における町のPRの実施について説明>

中山委員： 次回評価シートにページ数をいれておいてほしい。事業の見直しについて、見直ししてすぐに実施とあるが具体的に何を見直す予定なのか。

事務局： 主にすむ・奈良・ほっかつ！事業になるが、こちらについては外部有識者による検証委員会を別途開いており、実施した事業内容について、効果が認められたものについては継続して積極的に展開していき、効果が認められなかったものについては取りやめていくという方針を固め、限られた予算のなかで効果的に事業を実施していこうとしている。

鶴谷委員： 私もこの事業の検証に関わった。28年度は様々なメディアを活用して事業を展開していたが、北葛城を浸透していくなかで、何が効果的であったか検証をしたものである。今後は絞ってやっていくということで、外部有識者と4町の担当で方向性を確認した。

梶野委員： これは人口ビジョン・総合戦略の第一歩であると思う。各戸に配布されていて、知らないことがいっぱい載ってる。参考にさせてもらっている。上牧町はこんなことも取り組んでいるんだということが分かった。

辻委員： 繰り返しになるが、事業の見直し余地の事務局・副委員長が仰った検証委員会の内容を文言として記載してはどうか。そうしていただくと非常にわかりやすい。

中山委員： 達成度「B」の説明文はKPI年間1万件ずつ上げていく予定になっていてそれが達成できているということが記載されているといい。ニーズの方向性は「A」、町関与の必要性は「B」、事業見直しの余地のところは今意見が出たように、外部有識者の検証委員会のなかで効果の高い部分とそうでないところがあるということなので、もう少し具体的に書かれた方がいい。今後の方向性については見直して継続ということで事業費は縮小、労働量は現状のままということだが、これは国の交付金がなくなるということか？

事務局： そういうことである。

中山委員： 金額を減らしながら引き続き成果を上げていくということか？

事務局： 初年度は補助率100%の交付金だったので大規模な事業を実施できたが、事業実施のなかでより効果の高い部分について、事業を継続しPRを行っていきたいと考えている。

中山委員： そのあたりも今後の方針に記載してほしい。初年度立ち上げのときは、交付金で実施して、一年間実施した結果、効果について検証できたので、今後、事業費は減るが、効果的な実施方法については見当がついているので、見直しながら進めていくという感じの記載をしていただければいいのではないかと。

(4) 町内の優れた技術・能力を有する人材発掘について

事務局： <政策調整課より町内の優れた技術・能力を有する人材発掘について説明>

中山委員： 総合戦略上のKPIは基準値「10名」目標値「20名」となっているが、今回、

2017年度のKPIとして「30名」、2018年度のKPIとして「50名」と記載されているが、これはどういうことか。

事務局： この事業は交付金事業として採択され、総合戦略策定段階の想定よりも大きな予算がついている。KPIに記載されている「30名」、「50名」という目標値は交付金申請において提出した実施計画において記載している数値であり、それに基づいて今年度以降も取り組んでいくことになるので、総合戦略上は目標値「20名」であるが、このかたちで記載させていただいた。

中山委員： それであれば、達成度は「A」でいいのではないか。当初は10名から20名に増やすというような予定だったが、国の採択を受けて、事業費も増えて、当初以上の成果も上がって、最終目標も現状の目標をはるかに超えてくる予定ということで、その方がいいのではないかと思う。ニーズの方向性は「A」で、町関与の必要性が「B」で。事業の見直しの余地は「見直しの余地はあるが時間が必要」となっているが見直しもされるのか？

事務局： 先ほどの説明にもあったが、町民の声も把握しながら、そのときの状況も見極めつつ、見直しもかけながら効果的に実施していきたいという意味でそのように表現させていただいた。

辻委員： 登録者が5名増えてよかったと思うが、実際に事業に携わって活躍されたかたは何名いるか。

事務局： 活用実績については、事務局のほうで正確な実績を把握できていない。今後今のご意見を参考にさせていただいて把握するよう努めてまいりたい。

辻委員： そういうところで評価が「B」になったのかなと思ったが、検討してください。

中山委員： 労働量が2つチェック入っているが。

事務局： 労働量については、体制は変わらないので「現状のまま」というかたちで進めていきたいと考える。

(5) 人材バンクの情報発信について

事務局： <政策調整課より人材バンクの情報発信について説明>

中山委員： KPIは先ほどのものと同じでいいか？

事務局： 統一した目標で進めていきたいと考えている。

中山委員： 「多世代交流を核とした生涯活躍のまち構想」というのがあるのか？先ほどのものとは関係ないのか？

事務局： 関連はもちろんするが、こちらの評価シートは情報発信に限定された記載になっているので、既存のHPや広報、また移住施策と連携し実施していくものについて検証していただきたいと思う。

中山委員： 「町内の優れた技術・能力を有する人材発掘」と「人材バンクの情報発信」の区別したほうがいい。KPIはひとつしかないので仕方がないが、情報発信の関係でそれぞれの評価項目を記載していただければと思う。

辻委員： 全体的に見ていると受け身。新規に新しくこういうことをしようという情報発信をしてもらいたい。例えば観光ボランティアみたいな、上牧町に不足しているものについて戦略的に挙げていただけるといいなと思う。待ってるだけじゃなくて新しいものに踏み込んでいく姿勢がほしい。

鶴谷委員： 達成度のなかで 18 人という記載があるがこれは何か計画があるのか。

事務局： 先ほども国の交付金事業ということでご紹介させていただきました、「多世代交流を核とした生涯活躍のまち構想」の実施計画のなかで、平成 28 年度において目標に設定している数値である。そこを考えると達成度、進捗としては少々下回るものであるので達成度「B」ということにしたが、今回は総合戦略の検証ということで、そこで設定されている 2020 年時点で「20 名」という目標値を考えると、ご指摘いただいたように達成度「A」というので妥当ではないかと考える。

中山委員： もともと設定している数値目標に基づいて検証するというので統一した方がいいので、先ほどと揃えて達成度は「A」でいいと思う。ただし、区別するために情報発信の文章に修正してほしい。今後の方向性は現状のまま継続でいいのか？事業の見直しの余地は見直しの余地はあるが時間が必要になっている。文章を見ているとどちらかという見直しをかけながら取り組んでいくという感じであるか。

事務局： 今回は情報発信の部分に関しては、事業費がかからないというかたちで評価シートを作成しているので、次年度以降もお金をかけずに施策の連携等で補っていきたいと考えている。労働量に関しても人員が増えるとかということもなく、今の体制のまま進めていきたいと考えている。

中山委員： 達成度のみ「A」に変えて、残りは事務局提案どおりということで、文章に関しては検討していただくということでお願いします。

(6) 地域活動支援について

事務局： <政策調整課より地域活動支援について説明>

中山委員： KPI で新規活動団体を 2020 年までに新たに 2 つ立ち上げることだと思うが、今説明のあった「楽しいまちづくりの会」はもともとある団体か？

事務局： もともとあった団体です。

中山委員： 新しい団体ではないが、もともとある団体が財団の研究助成を受けて、基本構想をまとめたということですか？

事務局： まとめられて町に提案いただいたというかたちである。

西山委員： 今の説明を聞いていると、実際の地域活動支援として 28 年度で実施した部分からの引き続きで、町が 29 年度やるということになっているので、やったことについてはこれでいいと思うが、今後の方向性は地域の活動支援に対してではなく、町がこれから費用をかけていくという事業について書かれている。地域活

動支援として 29 年度どう取り組んでいくのかということが書かれていない。最後の今後の方向性で事業費、労働量を拡大していくということになっているが、地域活動支援で拡大していくとなると町が施策としてやっていく部分で協力していただくところと棲み分けができていない。

事務局： ご指摘のとおり、町の実施する部分と地域活動支援が混ざった形で拡大となっているので、地域活動支援としては現状のままの継続でお願いしたい。というのも、バリアフリー基本構想（素案）を策定する際の支援として、700,000 円出して、NPO 法人が素案を策定し、町に提案された。その素案を今年度、町として基本構想を策定するために、協議会を立ち上げ、現在検討を重ねているところである。その分については、町がバリアフリー基本構想を策定するものになるので、地域活動に対する支援ではないため、拡大は間違いで、現状のまま継続に訂正したいと考える。

中山委員： 取組内容も町としてどのように活動支援をしたかということに記載してもらえたらと思う。NPO がどういう活動したか、それを踏まえてどうするかというよりも、あくまで地域活動支援なので町として、NPO 法人をどのように支援してきたのかを書いてもらいたい。達成度も指摘があったように、2020 年までまだ先なので、概ね達成できたでいいと思うが、書き方としては町としてどのような支援を行ってその結果、NPO 法人がとりまとめできたというところの内容を記載してもらえたらと思う。

吉田委員： 基本目標に書いてある、広域連携や地域連携による地域力の向上を推進するというふうに書いてあるが、NPO とか行政に反映するような地域活動が主だったものになるのか、民間グループがやっている地域活動をどう捉えてここに反映していくのかが見えない。

中山委員： 総合戦略 67 ページの（3）に記載されている「町民の活躍できる場と機会を創出するとともに、新たな公共の担い手として地域活動団体や NPO、ボランティアの育成・立ち上げを支援する」というのが大きな目的になる。何でもいいというのではなく、新たな公共の担い手の育成であって趣味の会を作るとかは該当しないと思う。

吉田委員： 支援の方向性が限定されてしまって、もう少し幅広い地域活動を認識された方がいいと思う。

西山委員： 今後の取組方針のなかで、他の団体が活動として、活動としてここに挙げられるような事柄についても町のほうで支援活動を展開する予定があるのであれば、今後の方向性のなかで少し謳ってはどうかと思う。

中山委員： それを踏まえて、達成度は「B」、ニーズの方向性以下はこのままでいい、今後の方向性は全て現状のままというかたちで修正する。

（7）自治会設立支援について

事務局： <政策調整課より自治会設立支援について説明>

事務局： ささゆり台を28年4月に立ち上げたので、実績値を「1」と訂正させていただきたい。

鶴谷委員： 自治会はささゆり台以外に立っていないところはないのか。現状どれくらい設立されていて、立てなきゃいけない地域がこれだけあるなどの経緯を書いた方がいいのではないか。

事務局： もともと23自治会から開発されたささゆり台地区ができて24自治会となった。立ち上がっていない地区につきましては、平成7年ごろに自治会の区域を当時の自治会長に区域を確定していただいて、そのときは上牧町全ての地域を網羅できていた。自治会が立ち上がる際には、各自治会と境界線について協議を行うので、基本的には全ての地域が立ち上げられているという認識である。自治会への加入については、住民個人の判断になる。

西山委員： いろんな形で新しい住宅地ができ、そのなかで、ささゆり台ができて新たな自治会ができたのだと思うが、今回は自治会が設立できたが、設立まではいかなくても、設立に向けての相談を受け、いろんな支援をしているとしたらどうかと思う。

事務局： 現在自治会を作っていない地域が1ヶ所ある。下牧地区内に新興住宅地ができ、本来なら下牧として見るエリアだが、新興なので見られないということで、町からの連絡等をスムーズにできるように設立に向けて、現在協議を継続している。

辻委員： 片岡台のマンション（セントラルヒルズ）が入っていないはず。管理組合はあるが。

事務局： 片岡台1丁目と認識していた。

西山委員： 先ほどに付け加えて、設立まではいかないまでも、何らかの相談について支援をしているのであれば、そういうことについて支援内容を記載したらどうかと思う。

中山委員： 取組内容にできたところだけでなく、それ以外の取組も含めていただく。実績にKPIに「1」を足す。達成度「B」、ニーズの方向性「B」、町関与の必要性「B」、事業見直しの余地で「C」となっているが、業務の進め方や手続を簡略化する余地があるにチェックがあるので、どちらかに統一したほうが。

事務局： 「B：見直す余地はあるが時間が必要」に訂正して、揃えさせていただく。

中山委員： 今後の方向性は現状のまま継続としておいて、時間がかかるので当面は現状のままいくが、将来的には手続きの簡素化などを検討するとか取組方針のところに記載するようにしていただければと思う。

(8) 上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業について

事務局： <政策調整課より上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業について説明>

中山委員：目標値としてKPI「5」のところ、最初の年度で4事業まで実施できているので、達成度は「A」でいいのではないかと。事業費（予算執行金額）は予定を下回っているのか？

事務局：5事業の予定で1事業あたり15万円の予算を付けていた。予定よりは1事業少ない。

中山委員：KPIから見たら増えているので「A」で問題ないと思う。ニーズの方向性、町関与の必要性はいいとして、事業見直しの余地で成果を高める工夫の余地があるところがあるがこれは？個々の事業の成果を高めないといけないということ？

事務局：今まで申請事業が少ない現状がありましたので、より申請しやすい制度に変えていきたいという考えから記載している。

中山委員：成果を高めるといのはたくさんの団体に応募していただきたいということ？

事務局：広く提案・応募していただけるようなかたちに進化したいと考えている。

中山委員：28年度から改正されたことによって、提案しやすくなったから、今後は基本的にそのかたちで継続していきたいということですね。この点について何かご意見ありますか？

西山委員：事業の見直し余地のところと今後の方向性のところの整合性が取れていないと思う。

中山委員：平成28年度見直ししたばかりなので、当面はそのまま継続して、さらにしばらくして改めて見直す必要があれば見直すということになる。

8. 今後の予定について

- ・ 本日の検証予定案件における「未実施」分については、事務局まで直接メール、FAX等書面で寄せていただきたい。その意見については、次回以降の検証委員会で報告させていただいて、事務局の対応もその際に回答する。
- ・ 次回11月6日（月）10時からについては、福祉課、生き生き対策課、教育総務課、社会教育課の実施した事業の検証をお願いします。

以上